

## (コラム) 地域づくりの風土を支える公民館の存在について



(写真 木下巨一さん)

ここでは、平成30年(2018年)1月18日に開催しました「第3回 中山間地域の住民力・地域力による社会的事業支援研究会」において、飯田市での取組を振り返る中で、元飯田市職員で現在長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課企画幹の木下巨一<sup>のりかず</sup>さんから「地域づくりの風土を支える公民館の存在」についてレクチャーしていただきましたので、その概要を記載します。

### 地域づくりの風土を支える公民館の存在について

#### 1 多様性の中で新たな事業構想の元が生まれる

飯田市においては、職業、経験、特技、価値観、年齢、IUターン者など多彩な人々が公民館活動を通して協働することで、新たな発想が生まれる原体験をしています。

#### 2 平らな関係の中で「コト」を動かす経験の場

会社組織などの上司の指示に基づき部下が仕事をするという縦の関係に対し、地域は主従あるいは上意下達の関係ではなく、話し合いや説得、納得により物事が決められていきます。

公民館事業の企画や運営を通して、住民は平らな経験の中で「コト」を動かす経験を積んでいます。

#### 3 組織化の意味を原体験する場

皆で力を合わせると大きな力となり、課題解決の道筋が見えてくることを、公民館事業の企画運営の経験の中から原体験しています。

#### 4 互いの信頼関係の上で「コト」が動く

同じ目的を持つ者同士が「コト」に当たる際、公民館活動を通じた信頼関係があることで、互いを信頼しており「コト」が動き出すまでのプロセスが早いです。

#### 5 誰かが思い立てば誰かが支える～サーバント・リーダーシップ(※)

誰かがリーダーになっても、その人にすべてを任せるのではなく、皆で取り組んでいこうという姿勢があることで、リーダーが生まれやすい環境があります。

(※) サーバント・リーダーシップとは、「リーダーである人は、まず相手に奉仕し、その後相手を導くものである」というリーダーシップ哲学